

## R5.8.28 美浜中学校校内研修 振り返り

○普段から学年の先生にもご指導をいただいている通りで、学習問題を明確化して、生徒が自分から学ぶような仕掛けづくりが大切だということを改めて知った。

普段から川久保先生や古館先生がおっしゃってくださったり、取り組んでいるようなことがいくつもあった。全国的に見てもとても貴重で重要なことなんだと感じた。こういう研修はもちろん、そういう先生方と働ける日々の時間を大切に、いろいろ吸収しなければいけないと思った。

○まず、今日話を聞いて美浜中が行っている「マナビスタイル」は今の時代に合った取り組みだなと実感しました。特に、教科横断的な学びは生徒たちがこれからの社会に生きていくために大切なことだなと思いました。改めて授業を構成していくなかでその点を注意して考えていきたいと思いました。

「主体的な学習」を実施するためにも、ただ調べ学習をして「やらされた感」があるものにせずに、生徒の学びに火をつけられるようなステップを考えて実施していきたいと思いました。

○①写真の見せ方がとてもお上手で、それだけで考えさせることができるのだと思った。

②技術の授業の中で、主体的に考えさせる方法を実践したい。

新指導要領で、単なる製作し、技能を身につけることから、ここにこんなものがほしい→設計→製作 という変化があったが、企画から販売・使用までの全体のものづくりの流れを知らせたり、製作が苦手な人も、設計が得意なら設計者の職、その道のプロフェッショナルになればよいことなど、幅を広げて指導するとさらに主体性のある授業になるのではと思った。

「学習問題ができるまでに力をつぎ込む」ということを大切にしたいと思った。

○美浜中学校の取り組んできたこと、取り組んでいることを後押しして下さるような内容がたくさんあって、とてもありがたかったです。

また、探究や総合の活動においては生徒や児童の「知りたい、学びたい、そうなんだあ」といった知的好奇心やマナビへの主体的な取り組みが土台にあってこそだなと改めて確認できました。

○貴重な研修の機会をありがとうございました。

教員側としては、「主体的な活動」を行ったという認識が高いのに対して、生徒側は「主体的な探究学習」を行った認識が低く、やらされた、調べさせられたという感覚であるということに驚きました。確かに、調べ学習＝主体的な学習と認めていることがあります。この研修で、酒田市の火災などの例を体験して、含みを持たせる導き方で、調べたいと思えるようなつなげ方ができるといいなと考えました。学力だけでなく、これから自分の力で何かを生み出したり、希求したりする力を自分も学びながら、そんな学びの場を作りたいと思いました。

今後も、ご助言よろしくお願ひいたします。

○Education for all で学んできた我々が Quality Education で指導していかななくてはならない。指導の考え方を変えなくてはならない時代になったのだと感じました。

導入の大切さを改めて気づかされ、導入に入る前段階での準備をしっかり行いたいと思います。視覚的効果は、かなり動機づけになると感じました。

○今まで「主体的・対話的で深い学び」を目標に授業を行ってきましたが、今回の研修を受け、そもそも自分が思い描いてきた主体的な授業そのものが違っていたということに気づけました。

グループ活動を行うだけでは、ただやらせている授業になってしまい、生徒たちにとって主体的な学びにならないという調査結果にはとても驚かされました。

私たちが主体的な学びをやっているつもりにならないよう、日々の授業づくりにより注意して取り組まねばならないと思いました。

○学力・・・学びに向かう力

探究学習の発表で、衣装や空気感からつくる工夫からヒントを得ました

2学年の年度末の発表も、小道具や衣装をOKにしようか検討しようと思いました。

教育法規についても確認することができ、学びになりました。

○主体的な学びについて、Education for all から Quality Education に変化していることを知り、教科指導も変化させていかなければならないと実感しました。教科によって違うと思いますが、英語でもどのような声かけで主体的にコミュニケーションが取れるようになるのか考え、授業で実践していきたいと思います。

○共感や感動(驚き・笑い)を活用して問題に気付かせたのち、ひっくり返して火をつける展開について非常に参考になった。方向目標の設定についても、自分が普段設定している方法だったので、自分の中で非常に参考になった。